

を実施している施設で否定が多く、未実施の施設では「かなりあてはまる」の割合が他と比較して高かった。)「子どものプライバシーが十分に確保できない」については、全体では肯定が半数をこえ、「どちらともいえない」が33.9%で、否定は少なかった。小規模ケアの実施状況別に見ると、全入所児童を対象に小規模ケアを実施している施設では否定の割合が39.1%と最も高いが、未実施、

または一部の入所児童を対象に実施している場合は、肯定の割合が高かった。建設年度別にも顕著な違いが見られ、1990年以降に建設された施設では、「あまり当てはまらない」を選択する割合がそれ以前に建設された施設と比較して高く、1990年以降にはプライバシーの確保に配慮した施設が建設されたことがうかがえる。

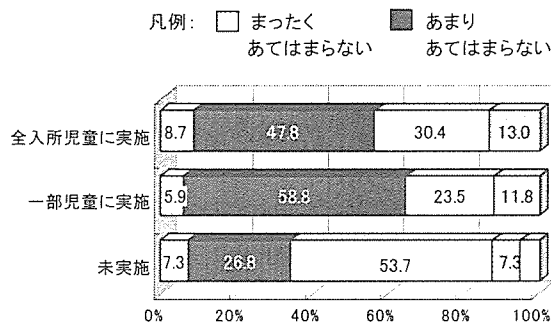


図6-8 「職員が子どもの行動を把握しにくい」
(小規模ケアの実施状況別)

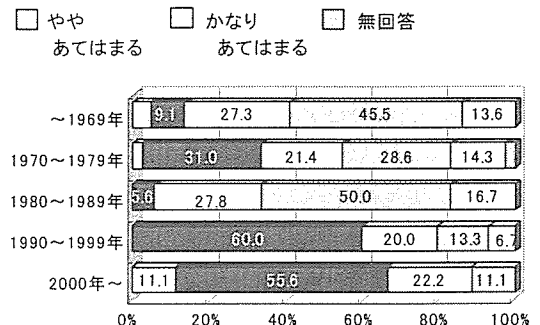


図6-9 「子どもの年齢に対応した空間が整備されていない」
(建設時期別) P<0.05

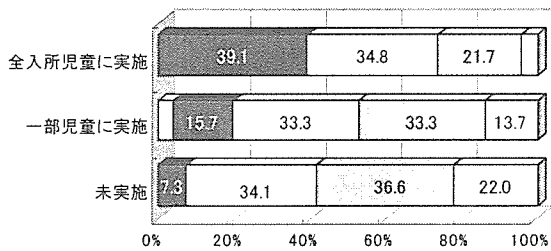


図6-10-1 「子どものプライバシーが十分に確保できない」
(小規模ケアの実施状況別) P<0.05

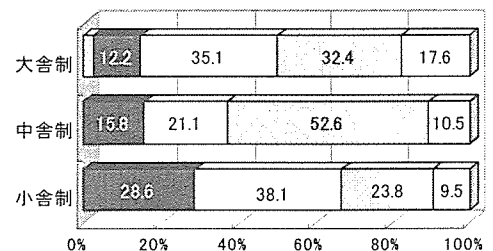


図6-10-2 「子どものプライバシーが十分に確保できない」
(施設形態別)

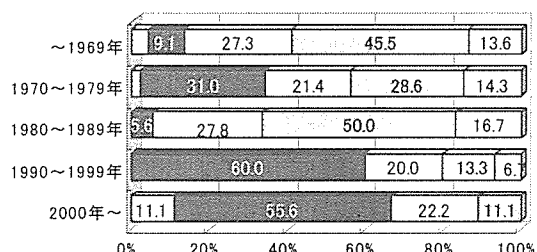


図6-10-3 「子どものプライバシーが十分に確保できない」
(建設時期別) P<0.05

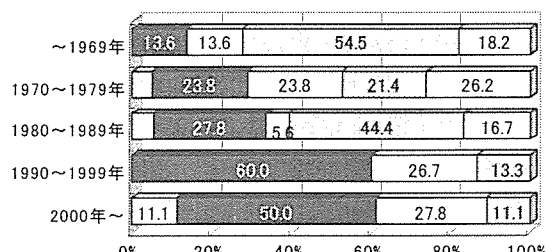


図6-11 「自立支援のための設備や環境が整っていない」
(建設時期別) P<0.01

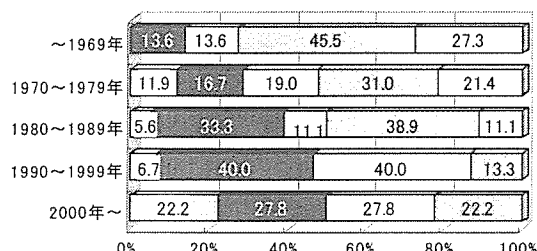


図6-12 「子どもの家族などの来訪者とゆっくり過ごせる空間がない」
(建設時期別) P<0.05

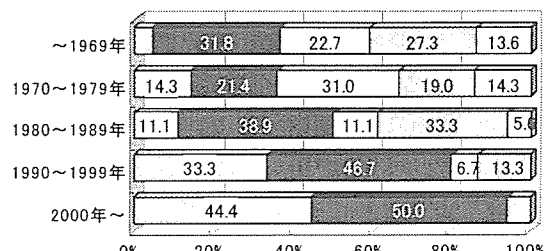


図6-13 「室内の温度調整がしにくい」
(建設時期別) P<0.01

「自立支援のための設備や環境が整っていない」については、全体では肯定の割合が 44.4%、否定が 34.8%であった。この項目も建設年度との関連がみられており、1990 年以降に建設された施設では否定の割合が顕著に高かった。小規模ケアの実施状況別では、全入所児童を対象に小規模ケアを実施している施設では否定の割合が高く、実施していない施設では肯定が 6 割 (61.0%) を超していた。

「子どもの家族などの来訪者とゆっくり過ごせる空間がない」については、全体では肯定が 46.1%、否定が 33.1%であった。建設年度別にみると、1980 年以降に肯定の割合が高くなっている。また、1990 年以降は「かなりあてはまる」皆無であり、来訪者を迎え入れる空間への配慮がされてきたことがわかった。小規模ケアの実施状況別に見ると、未実施の施設や一部の児童を対象に実施している施設では「かなりあてはまる」の割合が全入所児童を対象に小規模ケアを実施する施設よりも高かった。同時に、一部児童を対象に小規模ケアを実施している施設では「まったくあてはまらない」の割合も同程度であり、回答にばらつきが見られた。

「施設内の温度調節がしにくい」については、全体では肯定よりも否定の割合が高かった。建設年度別にみると、1980 年度以降から否定の割合が高くなり、2000 年以降では 9 割以上が否定していた。

なお、「ひとつの部屋が広すぎて、使いにくい」「地域の人や子どもたちと交流しにくい」については、属性別の違いは見られなかった。

4. 居住環境を整えるための費用

それぞれの施設が子どもの居住環境を整えるための施設設置や改築等に要する費用を国庫補助以外にどのように準備しているかを小規模ケアの実施状況別に見たところ、全入所児童を対象に小規模ケアを実施して

いる施設では、都道府県独自の加算があり (52.2%)、寄付・バザーなどの収入のある (56.6%) が他の群より多かった。

5. 小規模化の必要性

小規模化の必要性については、全入所児童を対象に小規模ケアを実施している施設では「非常に必要だと思う」割合が 8 割を超していた (82.6%)。未実施の施設では「あまり必要ではないと思う」が 14.8%みられた。

また、施設形態別にみると、中舎制では「あまり必要ではないと思う」が 31.6%であり、大舎制、小舎制の必要との意見とは大きく異なっていた。また、小舎制ではその必要性を「非常に必要」とする意見が 85.0%のところ、大舎制では「非常に必要」(44.6%)、「やや必要」(47.3%) に分散されていた。

6. 小規模化によるメリット

未就学児童にとってのメリットとして、小規模ケアを実施する施設 (全入所児童、一部の児童を対象共に)「子どもと職員の関係が密接になる」や「子どもが安定する」を選択する割合が、未実施の施設より高く、実際に小規模ケアを行った上での実感の伴う意見であると言える。

小学生にとってのメリットとしては、小規模ケアを実施する施設 (全入所児童、一部の児童を対

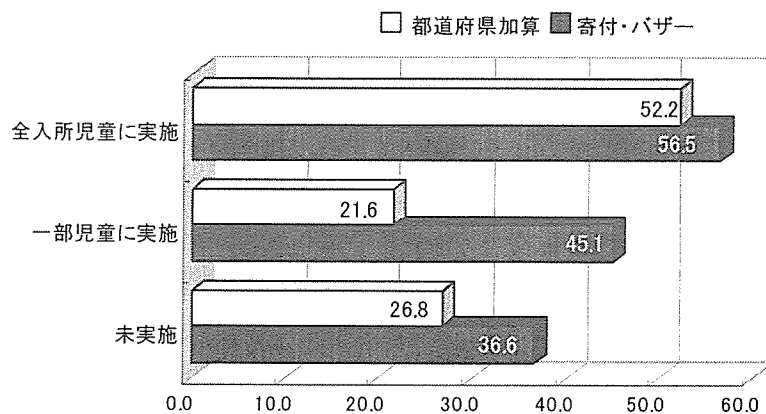


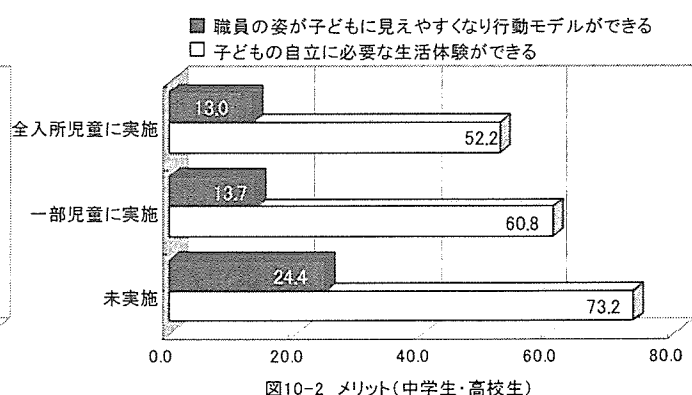
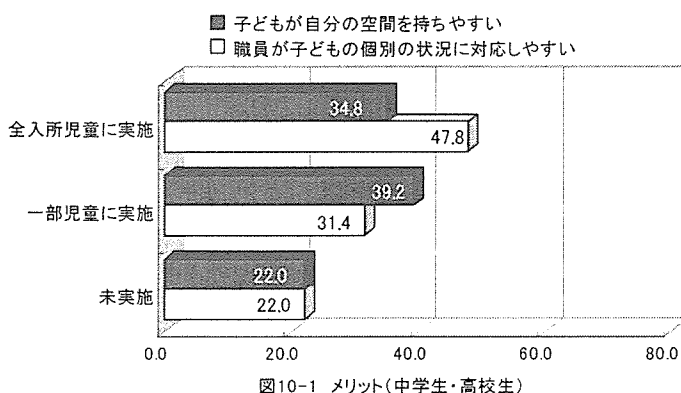
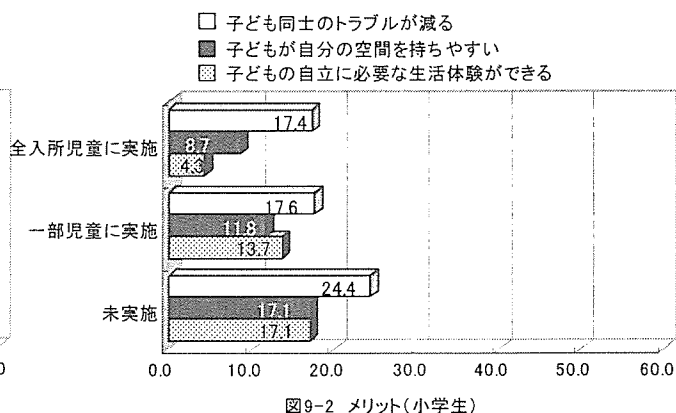
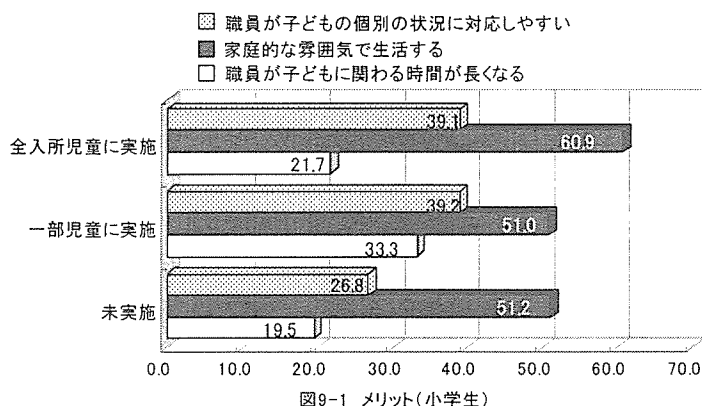
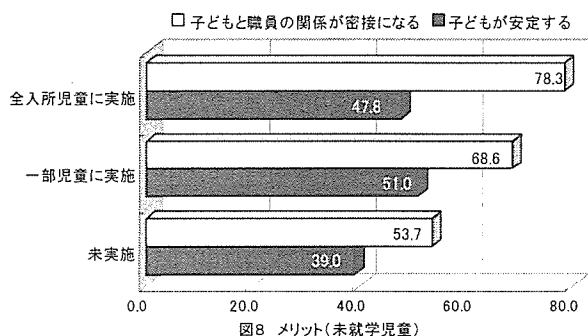
図7 小規模ケア実施状況別国庫補助以外の加算

象共に)では、「職員が子どもの個別の状況に対応しやすい」や「家庭的な雰囲気で生活する」、「職員と子どもが関わる時間が長くなる」「子どもが安定する」が未実施の施設より高かった。逆に、小規模ケアを実施していない施設で高かったものは、「子ども同士のトラブルが減る」「子どもが自分の空間を持ちやすい」「自立に必要な生活体験ができる」などであった。

中学生・高校生にとってのメリットとしては、小規模ケアを実施する施設(全入所児童、一部の児童を対象共に)、「職員が子どもの個別の状況に対応しやすい」「子どもが自分の空間を持ちやすい」などが未実施の施設よりも多く選択されていた。また、逆に未実施の施設の方が実施している施設よりも高い割合で選択したものは、「子どもの自立に必要な生活体験ができる」、「職員の姿が子どもに見えやすくなり行動モデルができる」などであった。

7. 今後のグループホーム設置の予定

現在小規模ケアを未実施の施設では、「設置したい」と思っているが、具体的な予定がない」が5割を超しており(53.7%)、また「設置する考えはない」



が2割(22.0%)であった。「設置する」予定があるのは17.1%であった。一部の児童に対して小規模ケアを実施している施設では、「当分はこの体制だが255.5%、「設置したいと思っているが、具体的グループホームは全入所児童に小規模ケアを実施している場合も、必要なものと認識されていることがわかった。

8. 小規模ケアへの取り組み

現在未実施の施設41か所のうち、31か所ではいずれかの形で小規模化を図りたい意向があるが、7施設は「小規模化する考えはない」と回答している。また、現在小規模ケアを実施している場合も、全面的改築、一部改築、施設敷地内、施設敷地外に場所を用意し、小規模化に取り組むという回答が示されており、バラツキがみられた。

9. 適正なケア単位

適正なケア単位については、小規模ケアを実施している施設(全入所児童を対象、一部の入所児童を対象共)では「6人未満」を選択する割合が最も高く、それぞれ60.9%、56.9%であった。次いで、「6人」が多く選択されていた。一部の入所児童を対象に小規模ケアを実施する施設では、「年齢層による」や「6人以上」を選択ものもあった。未実施の施設でも「6人未満」が最も多く、41.5%が「6人未満」、26.8%が「6人」を選択していた。

10. 小規模化の阻害要因

全入所児童を対象に小規模ケアを実施している施設では、「職員の勤務体制が労基法に触れる」(65.2%)や「職員の精神的負担」(73.9%)を他の群より高い割合で選択していた。また、「専門的助言が必要になる」(34.8%)も一部あるいは未実施の施設より高く、実感を伴う意見であるように見受けられる。一方、未実施の施設や一部の児童を対象に実施している施設では高い割合で選択された項

な予定がない」が23.5%であった。全入所児童を対象に小規模ケアを実施している施設でも、「具体的な予定はないが設置したい」との回答が26.1%で最も多かった。施設敷地外、地域に設置される目は、「職員配置が困難」が最も高く8割を超していた(それぞれ86.3%、85.4%)。また、「大集団の方が適している子どもがいる」や「入所児童間のサービスの質に格差が生じる」などの項目を全入所児童を対象に小規模ケアを実施している施設より高い割合で選択していた。さらに、「公的補助が受けられない・充分でない」という項目も全入所児童を対象としている施設よりも高い割合で選択されており、資金面での問題も小規模化を阻害する要因となっていることが明らかとなった。

これ以降は、小規模ケア用調査のクロス集計結果について述べる。

11. 小規模グループケアの養育形態

小規模ケア形態を施設敷地内と施設敷地外に分類すると、施設敷地内34件(48.6%)、施設敷地外36件(51.4%)となった。定員は表のように、施設敷地内では6人が多く(44.1%)であるが、8人や10人(最高は15人)もあった。施設敷地外では6人が91.7%であった。敷地施設内の小規模ケアは設置が2004年以降が7割を超しており、国の補助事業により設置が促進されたことがうかがえた。

12. 施設の小規模化について

(1) 小規模化の必要性

施設敷地外の方が「非常に必要だと思う」の割合が高かった(83.3%)。両者ともに必要ではないという意見はあげられなかった。

(2) 小規模ケアのメリット

施設敷地内外で違いが見られた項目についてみると、まず、未就学児については、施設敷地外の方が割合が高かった項目は、差の大きいものから

「子どもが安定する」(36.1%)、「職員が子どもに関わる時間が長くなる」(41.7%)、「職員が子どもの個別の状況に対応しやすい」(38.9%)などであった。逆に施設敷地内の方が割合が高かったものは、「家庭的な雰囲気生活する」(73.5%)であった。

次に、小学生については、10ポイント以上の開きがみられるものはなかった。

中学生・高校生については、施設敷地外は「子どもの自立に必要な生活体験ができる」(75.0%)が最も高い割合で選択されており、施設敷地内の55.9%に大きく差をつけていた。

(3) 今後の取り組み

大きな違いは見られなかった。

(4) 適正なケア単位

ケア単位は施設敷地内外ともに6人未満を過半数が選択しているが、6人未満の人数は施設敷地外では4人(47.4%)、5人(31.6%)の順に多く、施設敷地内では6人(33.3%)、3人(16.7%)の順に多く、また無回答も多かった(33.3%)。

13. 小規模化の推進を阻害する要因について

設置場所により違いが見られた項目は、まず施設敷地内の方が割合が高かったものは、差が大きい順に「職員配置が困難である」(85.3%)、「施設の構造上の問題があり、改築が困難である」(20.6%)、「職員が加重労働になり十分に休養ができない」(52.9%)などであった。逆に施設敷地外の方が割合が高かったものは、「専門的助言が必要になる」(55.6%)で開きが大きかった。

14. 自由記述の分析

(1) 小規模化についての意見や要望

本体施設調査に51件の意見や要望が記載されたが、総体的に小規模化を進める上での問題点をあげ、そのことへの対応を求める意見が多かったと言える。

施設の小規模化については、そのメリットを認め賛同する意見を示すものが多かったが、「選択肢の一つとして、小規模が増加することには賛成」だが、すべてが小規模化する必要はないという意見があった。同様の意見は、「小規模、大舎制それぞれの長所、短所を持ち合わせているので、それぞれの長所を活かし、伸ばし、短所を克服していくこと大事である」という意見にも見られている。また、「小規模化を推進する意味を感じていない」とする立場からは、小規模化よりも職員配置を6:1から4:1にすることがより大切であるとの意見や、里親制度を推進する方が児童・職員にとってメリットがあるという意見もあげられていた。

回答を寄せた施設の中には今後数年間の間に複数のグループホームの設置を計画している施設も見られたが、多くがまずは1か所からスタートしている段階である。各施設に1か所に限るという国の補助基準に対する意見が数件あげられていた。数十人の入所定員の中で6人の子どもだけを同施設内で特別に養護することが全国の児童養護施設で行われるということについて、それが児童の最善の利益につながるのかという意見であった。その他では、このことを1か所の「しぼり」と表現し、小規模化を推進したい施設には国や県から相応の援助が必要とする意見もあった。

この基準に対しては、他にも見直しを求めるさまざまな意見があげられていた。職員配置については1小規模グループケアにつき1人の職員加配では足りないことや、1グループが6人未満では認可されないことについても、例えば子どもが幼児の場合1人で6人を見ることは困難であるため年齢に応じて下限を下げること(4名以下)が求められている。このことは多様な小規模ケアの形態を実現するためにも求められており、どこでも一律6名である必要はないのではないかとの意見もあげられていた。さらには、地域小規模児童養護施設においては、常に本体定員の8割を確保していなければ認められないことへの不満もあげられていた。

職員配置に関する問題は最も多く書き込まれて

おり、小規模化において最も大きな課題であると
考えられる。児童に対する職員不足は小規模化以
前の問題であり、「現状では困難であることはわか
っているのに、なぜ国は見直しを進めないのか」
という意見もあげられており、最低基準の見直し
を求める声は多い。職員配置の問題は当然のこと
ながら財源の問題につながっており、公的資金に
よる援助がない限りはそれぞれの施設が負担して
行うことに限界があることが示されている。また、
職員配置を見直すことができない場合には、ケア
単位を下げるしか選択肢はなく、子どものケアの
質を落とすと同時に職員のオーバーワークを招き、
実態的には労働基準を遵守することが不可能にな
る。そのため、小規模化という方向性については
多くの児童養護施設でその意義を認め、進もうと
してはいるが、現実の問題として職員配置に関す
る課題が阻害要因となっていることが示唆された。

また、職員については、職員としての力量や適
性に関連して、職員の育成や職員への支援体制の
必要性があげられていた。

(2) 子どもの変化（良かったこと）

本体施設調査では 37 件、小規模ケア調査では
53 件の書き込みが見られた。両者共に共通した内
容が多く、特に違いは見られなかった。

最も多かったのは、子ども自身の安定である。
落ちついたと表現されることも多かったが、まず
子どもたちの生活が「ゆったり」と「リラックス
した」ものとなり、「いきいきと」あるいは「のび
のびと」生活する子どもの様子が示された。その
要因の一つには、自分の家としての意識が持てる
ことになったことや自分の居場所ができたがあげ
られている。また、同時に特定の大人（職員）と
の関係が密になることや、限られた空間の中にい
つでも大人の姿が見えることによる安心感、子ど
もの方から職員を探しに行く必要がなくなったこ
とも要因の一つである。

また、他児とのトラブルの減少も多くあげられ
ていたが、小集団化したことにより他児やグルー
プからのプレッシャーが減ったこと、トラブルが

全くなくなるわけではないが、そのありように変
化が見られるようになったことがあげられていた。
このことの要因としては、自分の家としての帰属
意識が生まれ、一緒に生活するもの同士、助け合
い、または理解しあおうとする姿勢が出てきたこ
とが指摘されていた。また、自分の空間ができた
ことにより、トラブルになりそうなときに避難で
きる場所ができたこともあげられていた。

子ども自身の成長としては、自主性、生活習慣
の確立、社会性の発達、経済観念の発達、ものを
大切にする気持ちの芽生え、学習意欲などがあげ
られた。自主性については、自分自身の生活リズ
ムを主体的につくりあげることで、これまであっ
た不登校が減少したり、自ら学習をしようとする
姿勢が芽生えたりしていた。また、生活習慣上も
夜尿や失禁など、かつてはできなかつたことが自
然にできるようになったこともあげられていた。

社会性の中では対人関係が大きいウェイトを占
めていると考えられるが、多くの子どもたちが入
所前までの生活で、大人との信頼関係を構築する
ことができず、コミュニケーション能力の発達等
において問題が見られたわけであるが、小規模ケ
アに移行したことにより、例えば職員との安定し
た人間関係の中で素直に甘えを出すことができる
ようになっており、それまでの刺々しさが減少し、
やさしい態度も出せるようになっている。また、
「個性がはっきりした」や「意思表示する」こと
ができるようになり、安心してありのままの自分
を出すことができるようになっている。

小規模ケアにおける生活体験は、子どもたちの
自立のための力や技術をつけるために役立ってい
る。特に、食事に関しての記述が多くみられたが、
食事作り、買い物などに参加することにより、食
事を楽しみにする子どもが増え、小食や偏食が改
善されたり、食育の効果も上がっている。さら
には、生活体験により節約やものを大事にす
ることを学び、そのことが経済観念の発達に結
びついていくことが指摘されている。

また、地域とのコミュニケーションが増えたこ
とや、施設外の友人が増えたことなどがあげられ

ていた。

(3) 子どもの変化（改善や対応が必要なこと）

本体施設調査では 25 件、小規模ケア調査では 34 件の書き込みが見られた。両者間に内容の違いは見られないが、担当者の回答により具体的な例があげられ、また個別的対応において苦慮する姿なども垣間見られた。

あげられた内容は、まずは本体施設での集団生活から、小規模グループケアへの移行期おけるとまどいや問題などである。例えば、本体施設での生活のありかたや基準が残っており、自分自身で生活を作り出すことへのとまどいや困難、1人の空間に慣れないこと、それぞれの時間の過ごし方がわからず集まってくることなどがあげられていた。また、本体施設での子ども同士の関わりを強く求めるということも指摘されている。

次に指摘されていることは、多くの場合、先述の子どもの変化で良かったこととしてのあげられたことのデメリットとなる部分とも言えるかもしれない。そのひとつとして、子ども同士、あるいは子どもと職員の距離及び関係が密になることにより、ぶつかり合いが生じたり、ストレスが溜まったりする状況が生まれたときに、それをかわす逃げ場が双方なくなることが多くあげられていた。これには物理的な空間の狭さも関連していると考えられる。

また、大集団ではあまり発揮されることのなかった個性や甘え、個々の子どもの抱える課題や問題が表出された時にそのことに対峙する職員の力量が問われることになる。その子どもが小規模グループケアに向くのか集団生活の方に適性があるのかを事前に見極めることの必要性や1人の子どもの不安定さが小さい空間の中で他の子どもに与える影響なども指摘されている。

子どもによっては、小規模グループケアで生活を始めることにより、自分自身の家や家族のことを振り返らざるをえなくなる子どももあり、そういった子どもへの職員の対応が必要となることが指摘されていた。

小規模化により良かったこととして自分自身の居場所を持てたということがあげられていたが、逆に本体施設ではベッドで就寝していた子どもが布団で就寝するようになり、「個人的スペース」がなくなったという意見も見られた。

最後に、対応する職員により、態度を変える子どもの姿への指摘が数件あり、子どものことを施設職員全体が見ているという体制が希薄になることが示されていた。

(4) 職員の变化（良かったこと）

本体施設調査では 31 件、小規模ケア調査（回答者は担当者）では 44 件の書き込みが見られた。

まず、職員自身の意識として、やりがいがある、責任感が強くなる、職員としての自覚が生まれるなど、働く意欲の増進があげられていた。仕事の進め方については自分のペースで働くことができることや、仕事としてよりも生活をしている意識が強くなったなどがあげられている。また、責任の範囲が明確になり、仕事がしやすくなったという意見もあった。さらには、職員自身の心の安定や精神的余裕などもあげられていた。

次に、子どもへの個別対応について多くの意見があげられており、集団への援助から個人への援助に変わったことで、「じっくり」と、「深く」かわることや、落ち着いた中で会話することができるようになり、子どもを把握することや細かく見ることができるようになり、子どもにしてあげられることの範囲が広がった、子どもの変化への気づきが可能となったなどが指摘されていた。そのような関わりの中で、子どもとの信頼関係や愛着関係ができることや、ケア目標を明確にし、計画的にかかわることができるようになったという意見もあった。

また、子どもと過ごす時間が増加したこともあげられていた。逃げ場がないことで、逆に子どもとしっかり向き合うようになったという意見もあげられていた。

一方で、子どもとの関係ばかりでなく、外から施設が見えるようになったという意見があげられ

ており、施設の様子がよく見え、反省点も見え、学校や関係機関とも連絡等がしやすくなったということもあげられていた。地域との関係では、地域の人々に支えられているという意見もあげられていた。

(5) 職員の変化（改善や対応が必要なこと）

本体施設調査では 32 件、小規模ケア調査では 42 件の書き込みが見られた。

まず、職員の個人個人の力量や専門性が問われることとなる。1人で対応することが多くなることから本体施設であれば、他の職員から学んだり、アドバイスを受けることが可能であるが、そのような機会もなくなり、ともすれば独善的なケアに陥ることが懸念されている。そのため、資質の向上が必要であり、スーパービジョン体制を確立すること、本体施設と情報の共有化を図っていくことが必要である。中には、本体施設職員の協力が必要との意見も見られた。

また、小規模グループケアでの生活上、家事をこなすことが職員に求められるが、その際の家事能力も職員の力量の1つとして捉えられる。実際、家事に追われ、子どものケアに十分な時間を取ることが困難になり、例えば、子どもの年齢に応じた遊びができていなかったりなどしている。

本体施設とのつながりは、施設敷地外に小規模グループケアを構えている場合は特に必要となり、子どもの学校に関する情報などに関しても定期的なケア会議を行い、統一の取れたケアを行っていく必要性が指摘されていた。小規模グループケアを行う方にも本体施設での状況が把握されている必要もある。一方で、常に子どもが周りにいるので、秘密を持ちにくくなり、職員同士の連絡が取りにくくなったという意見もあげられていた。

勤務体制については、長時間労働や宿直の増加など、職員への負担が増加することがまず指摘されている。また、職員が住み込みではない場合に、職員の交代や入れ替わり立ち替わりの職員の応援（本体施設などから）が子どもの生活の安定やケアの連続性を阻害することを懸念する声もあげら

れていた。

子どもとの関わりが密になる分、職員の精神的ストレスや疲労がたまるため、メンタルヘルスが必要である。一方、子どもとの関わりが密になることで、自分の担当グループに固執したり、個人的な思い入れが強くなり、子どもを甘やかしたり、あるいは過剰な注意、指導が出る場合もあることが指摘されている。職員が子離れし、次のステップに進めることが必要なケースもある。孤立化と相俟って視野が狭くなったり、独善的にならないような体制作りの必要性もあげられている。

また、緊急時の対応としては、職員が手薄になる時間帯や学校行事などのための外出時などに子ども病気や事故などの緊急事態が発生した時の懸念もあげられていた。いずれにしても、職員配置や勤務形態は人員を増やさなければどうすることもできない事態に陥っていることが窺えた。

子どもの場合と同様に良いこととしてあげられたことがディメリットとして作用していることが窺えるような内容があげられた。

D. 考察

1. 児童養護施設における居住環境

質問紙調査の二次分析により、児童養護施設の居住環境について指摘できることは以下の通りである。まず、居住環境と建設年度の関連が多くみられていた。すなわち、建設年度が1990年以降や2000年以降の施設では、子どもの年齢に対応した空間整備やプライバシー確保に配慮した配置、子どもの家族などの来訪者とゆっくり過ごすことができる親子宿泊室の設置などにおいて、十分な配慮がされた設計がされていることがうかがえた。一方、1990年以前に建設された施設では老朽化の問題、浴室やトイレが混み合う、温度調整がしにくいなどの問題が見られていた。これらは施設が建設された時代における養育計画や目標に沿うように作られたものであり、新しい施設ほど現在における養育目標や自立支援計画に沿うものになっ

ていることは当然のことである。また、老朽化を肯定する意見も多かったが、財源確保等について都道府県によっても条件は異なり、すべての施設がすぐに改善に着手できる条件が整っているわけではない。

次に施設形態別に見た特徴では、大舎制より小舎制の方が、食器などの子ども専用のもや中学生以上での個室ありの割合が有意に高く、子どもの好みを採用しやすい環境にある割合が高かった。しかし、ハード面では項目によっては広さの確保など大舎制と同様の問題を抱える側面もあり、施設形態だけの問題ではないと言えることができる。

最も違いが顕著に見られたのは小規模ケアの実施状況別に見た特徴であった。全入所児童を対象に小規模ケアを実施する施設形態として小舎制が最も多かったが、未実施の施設と比較した場合に顕著な違いが見られることが多かった。個人専用のもや個人の好みの採用しやすさ、プライバシーの確保、子どもの年齢に配慮した空間整備、家庭のような暖かみのある空間整備の割合が高かった。また、自立支援のための設備や環境が整えられていると回答する割合も高かった。

一方、一部の児童を対象に小規模化を実施している施設は大舎制が多く、その割合は未実施の施設と同程度であったが、回答の内容は、ほとんどの項目で全入所児童を対象に実施する施設と未実施の施設の中間の割合を示していた。多くの施設では1か所の小規模ケアを実施しているにもかかわらず、未実施の施設との相違が見られることをどのように解釈することが妥当か、今後検討を深める必要がある。

2. 小規模ケア実施の状況と展望

全入所児童を対象に小規模ケアを実施している施設の多くは、従来より小舎制で小集団単位のケアを行ってきた施設が多く、一部施設の老朽化による新築の際に大舎制から小規模化に取り組んだ施設も見られたが、そのような施設はきわめて少数である。

多くの児童養護施設では国庫補助事業が始まった2004年度以降に1か所または複数か所の小規模グループケアや地域小規模児童養護施設を導入し、一部の入所児童に対して小規模ケアを実施している。本調査は2005年度に実施したものであり、新しく小規模ケアへの取り組みをスタートさせた直後の回答が多く含まれていた。

そのため、自由記述からは職員が家事に追われて十分に子どもにかかわることができなくなっていることや、子ども自身が同年齢層の子どもたちとの交わりを強く望む、小規模ケアに向く子どもと向かない子どもがいることがわかり、小規模ケアから本体施設に戻した、などの状況があげられ、小規模化導入期あるいは移行期の混乱が垣間見られた。

小規模化の導入については、さまざまな困難性があることが本調査を通じて指摘されている。その最たるものは職員配置の問題であり、またそれに関連する財源措置の問題である。また、小規模化にあたり、1グループケアあたり職員1人の加配では不十分であることが指摘されている。同時に、小規模グループケアの採用を希望しても、1グループの人員が6人未満では認められないことや、本体施設定員との関係で小規模児童養護施設設置が認められないことを指摘する施設なども見られた。

自由記述の意見に見られたように、すべての施設において全入所児童を対象に小規模化する必要はないかもしれないが、児童養護施設が小規模化への流れを進める中で、すべての施設が小規模化を導入したり、建て替えが可能ではないことが前提になるであろう。そうであれば、小規模化により得られるメリットがなぜ現在の養育形態の中で獲得できないのかを問い直す必要があるだろう。

3. 小規模化のメリット

小規模化のメリットとして、全体的に子どもの情緒面での安定が多くあげられた。年齢別には、未就学児童では子どもとの職員の関係が密接にな

ることや家庭的な雰囲気与生活することなどが多くあげられ、特定の大人との間に安定した関係を結ぶことが利点としてあげられている。これは、小学生でも同じである。中学生・高校生になると自立を目標とするさまざまな生活体験ができることや、職員が個別的にさまざまな問題に対応しやすいこと、子ども自身が自分の空間を持ちやすいことがメリットとしてあげられていた。

しかし、メリットの裏側には、デメリットとして捉えられる側面もある。職員が子どもたちと親密な関係を結ぶ中で、子どもを甘やかしたり、自分の担当グループに固執するということがあげられたり、また、子ども自身が個室を持つことで、子ども同士の問題を避けるために自室にこもるなど、メリットにもデメリットにもなりうる要因は必ずあるものと考えられる。

このようなメリットを引き出すために、職員の力量や資質が必要であることは言うまでもないが、個々の職員の力量や資質にだけ依存するのではなく、あくまでも施設としての一貫性のある自立支援が行われることが求められている。そのために、小規模グループが孤立せずに、本体施設と情報を共有しながら、施設の一職員としての位置を崩さずに対応していくことが必要である。

特に、施設敷地外で小規模ケアが行われる時、緊急時の支援やスーパービジョン体制、職員のメンタルサポートをどのように行っていくかは重要な課題であると共に、その支援体制は児童養護施設による里親支援にも応用できるものとなると考えられる。

<参考文献>

庄司順一、尾木まり他（2006）「児童養護施設の小規模化の動向と課題」『平成17年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）子どものライフステージにおける社会的養護サービスのあり方に関する研究 報告書』（主任研究者 庄司順一），pp. 43-79

註1）再集計を行うにあたり、ローデータの見直しを行った。回答の中には、地域小規模児童養護施設などのグループホームを設置しておりながら（問1-9）、小規模ケアを実施していないと回答していたものがあつた。そのため回答方法を統一するため、グループホームを実施している場合は、小規模ケアを実施しているものとしてカウントし直した。また、問2の選択肢のうち、地域小規模児童養護施設を選択していない場合も、問1-9の回答を反映した。

表1-1 小規模ケアの実施の状況

	総数	採用している	採用していない
全体	115	74	41
	100.0	64.3	35.7
実施している (全入所児童)	23	23	0
	100.0	100.0	0.0
実施している (一部入所児童)	51	51	0
	100.0	100.0	0.0
実施していない	41	0	41
	100.0	0.0	100.0

表1-2 小規模ケアの実施状況別設置主体

	総数	公立	社会福祉法人	その他	N. A.
全体	115	12	100	1	2
	100.0	10.4	87.0	0.9	1.7
実施している (全入所児童)	23	1	20	1	1
	100.0	4.3	87.0	4.3	4.3
実施している (一部入所児童)	51	3	47	0	1
	100.0	5.9	92.2	0.0	2.0
実施していない	41	8	33	0	0
	100.0	19.5	80.5	0.0	0.0

表1-3 施設形態別小規模ケア実施状況

	総数	大舎制	中舎制	小舎制	その他
全体	115	72	18	20	5
	100.0	62.6	15.7	17.4	4.3
実施している (全入所児童)	23	3	4	15	1
	100.0	13.0	17.4	65.2	4.3
実施している (一部入所児童)	51	39	4	4	4
	100.0	76.5	7.8	7.8	7.8
実施していない	41	30	10	1	0
	100.0	73.2	24.4	2.4	0.0

表1-4 小規模ケアの実施場所(複数回答)

	総数	本体施設内ユニットケア	小規模グループケア(本体施設内)	小規模グループケア(施設敷地内)	小規模グループケア(施設敷地外)	地域小規模児童養護施設	その他
全体	74	15	15	23	18	33	6
	100.0	20.3	20.3	31.1	24.3	44.6	8.1
実施している (全入所児童)	23	10	6	7	6	10	2
	100.0	43.5	26.1	30.4	26.1	43.5	8.7
実施している (一部入所児童)	51	5	9	16	12	23	4
	100.0	9.8	17.6	31.4	23.5	45.1	7.8

表1-5 グループホーム設置の有無(複数回答)

	総数	地域小規模児童養護施設	自活訓練事業実施指定施設	その他のグループホーム	設置していない	無回答
全体	115	33	8	20	57	9
	100.0	28.7	7.0	17.4	49.6	7.8
実施している (全入所児童)	23	10	2	8	5	2
	100.0	43.5	8.7	34.8	21.7	8.7
実施している (一部入所児童)	51	23	6	12	11	7
	100.0	45.1	11.8	23.5	21.6	13.7
実施していない	41	0	0	0	41	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

表1-6 小規模ケア実施場所(施設敷地内・外)

	総数	施設敷地内	施設敷地外	両方	無回答
全体	58	22	9	26	1
	100.0	37.9	15.5	44.8	1.7
実施している (全入所児童)	22	8	2	12	0
	100.0	36.4	9.1	54.5	0.0
実施している (一部入所児童)	36	14	7	14	1
	100.0	38.9	19.4	38.9	2.8

表2-1 施設形態別子どものグループ構成 P<0.01

	総数	大まかな横割り	縦割り	横割りと縦割りの両方	無回答
全体	114	28	42	39	5
	100.0	24.6	36.8	34.2	4.4
大舎制	74	22	21	29	2
	100.0	29.7	28.4	39.2	2.7
中舎制	19	6	8	3	2
	100.0	31.6	42.1	15.8	10.5
小舎制	21	0	13	7	1
	100.0	0.0	61.9	33.3	4.8

表2-2 施設の建設時期別子どものグループ構成

	総数	大まかな横割り	縦割り	横割りと縦割りの両方	無回答
全体	115	27	43	40	5
	100.0	23.5	37.4	34.8	4.3
～1969年	22	3	9	9	1
	100.0	13.6	40.9	40.9	4.5
1970～1979年	42	12	18	11	1
	100.0	28.6	42.9	26.2	2.4
1980～1989年	18	4	5	7	2
	100.0	22.2	27.8	38.9	11.1
1990～1999年	15	6	6	3	0
	100.0	40.0	40.0	20.0	0.0
2000年～	18	2	5	10	1
	100.0	11.1	27.8	55.6	5.6

表2-3 小規模ケアの実施状況別子どものグループ構成 P<0.01

	総数	大まかな横割り	縦割り	横割りと縦割りの両方	無回答
全体	115	29	43	41	2
	100.0	25.2	37.4	35.7	1.7
実施している (全入所児童)	23	1	16	6	0
	100.0	4.3	69.6	26.1	0.0
実施している (一部入所児童)	51	14	20	16	1
	100.0	27.5	39.2	31.4	2.0
実施していない	41	14	7	19	1
	100.0	34.1	17.1	46.3	2.4

表3-1 寝室の平均的人数

施設形態別	総数	大舎制	中舎制	小舎制
	3.5	3.83	3.14	2.95
小規模ケア実施状況別	総数	全入所児童に実施	一部児童に実施	未実施
	3.5	2.55	3.95	3.46
小学生以下児童割合別	総数	多い	平均的	少ない
	3.5	4.17	3.2	2.98

表3-2 小規模ケアの実施状況別中学生の個室の有無 P<0.01

	総数	なし	一部あり	あり	無回答
全体	115	65	30	15	5
	100.0	56.5	26.1	13.0	4.3
実施している (全入所児童)	23	6	7	9	1
	100.0	26.1	30.4	39.1	4.3
実施している (一部入所児童)	51	29	16	4	2
	100.0	56.9	31.4	7.8	3.9
実施していない	41	30	7	2	2
	100.0	73.2	17.1	4.9	4.9

表3-4 施設形態別中学生の個室の有無 P<0.01

	総数	なし	一部あり	あり	無回答
全体	114	65	26	15	8
	100.0	57.0	22.8	13.2	7.0
大舎制	74	49	19	3	3
	100.0	66.2	25.7	4.1	4.1
中舎制	19	8	3	5	3
	100.0	42.1	15.8	26.3	15.8
小舎制	21	8	4	7	2
	100.0	38.1	19.0	33.3	9.5

表3-3 小規模ケアの実施状況別高校生の個室の有無 P<0.05

	総数	なし	一部あり	あり	無回答
全体	115	39	37	34	5
	100.0	33.9	32.2	29.6	4.3
実施している (全入所児童)	23	3	6	13	1
	100.0	13.0	26.1	56.5	4.3
実施している (一部入所児童)	51	18	16	14	3
	100.0	35.3	31.4	27.5	5.9
実施していない	41	18	15	7	1
	100.0	43.9	36.6	17.1	2.4

表3-5 施設形態別高校生の個室の有無 P<0.01

	総数	なし	一部あり	あり	無回答
全体	114	65	26	15	8
	100.0	57.0	22.8	13.2	7.0
大舎制	74	49	19	3	3
	100.0	66.2	25.7	4.1	4.1
中舎制	19	8	3	5	3
	100.0	42.1	15.8	26.3	15.8
小舎制	21	8	4	7	2
	100.0	38.1	19.0	33.3	9.5

表3-6 施設の建設時期別中学生の個室の有無 P<0.05

	総数	なし	一部あり	あり	無回答
全体	115	64	29	14	8
	100.0	55.7	25.2	12.2	7.0
～1969年	22	11	5	5	1
	100.0	50.0	22.7	22.7	4.5
1970～1979年	42	31	8	1	2
	100.0	73.8	19.0	2.4	4.8
1980～1989年	18	7	6	3	2
	100.0	38.9	33.3	16.7	11.1
1990～1999年	15	9	5	0	1
	100.0	60.0	33.3	0.0	6.7
2000年～	18	6	5	5	2
	100.0	33.3	27.8	27.8	11.1

表3-7 施設の建設時期別高校生の個室の有無 P<0.05

	総数	なし	一部あり	あり	無回答
全体	119	39	38	34	8
	100.0	32.8	31.9	28.6	6.7
～1969年	74	30	26	14	4
	100.0	40.5	35.1	18.9	5.4
1970～1979年	19	6	4	7	2
	100.0	31.6	21.1	36.8	10.5
1980～1989年	21	3	5	11	2
	100.0	14.3	23.8	52.4	9.5
1990～1999年	5	0	3	2	0
	100.0	0.0	60.0	40.0	0.0
2000年～	18	6	5	5	2
	100.0	33.3	27.8	27.8	11.1

表4-1 小規模ケア実施状況別面会室の有無

	総数	ない	ある			N.A.	
			専用	兼用	不明		
全体	115	12	102	23	49	30	1
	100.0	10.4	88.7	20.0	42.6	26.1	0.9
実施している (全入所児童)	23	1	22	9	6	7	0
	100.0	4.3	95.7	39.1	26.1	30.4	0.0
実施している (一部入所児童)	51	7	43	8	22	13	1
	100.0	13.7	84.3	15.7	43.1	25.5	2.0
実施していない	41	4	37	6	21	10	0
	100.0	9.8	90.2	14.6	51.2	24.4	0.0

表4-2 小規模ケア実施状況別親子宿泊室の有無

	総数	ない	ある	N.A.
全体	115	71	41	3
	100.0	61.7	35.7	2.6
実施している (全入所児童)	23	12	11	0
	100.0	52.2	47.8	0.0
実施している (一部入所児童)	51	28	21	2
	100.0	54.9	41.2	3.9
実施していない	41	31	9	1
	100.0	75.6	22.0	2.4

表4-3 施設形態別親子宿泊室の有無

	総数	ない	ある	N.A.
全体	114	68	40	6
	100.0	59.6	35.1	5.3
大舎制	74	49	21	4
	100.0	66.2	28.4	5.4
中舎制	19	12	6	1
	100.0	63.2	31.6	5.3
小舎制	21	7	13	1
	100.0	33.3	61.9	4.8

表4-4 施設建設時期別親子宿泊室の有無 P<0.01

	総数	ない	ある	N.A.
全体	115	69	40	6
	100.0	60.0	34.8	5.2
～1969年	22	14	6	2
	100.0	63.6	27.3	9.1
1970～1979年	42	31	10	1
	100.0	73.8	23.8	2.4
1980～1989年	18	7	9	2
	100.0	38.9	50.0	11.1
1990～1999年	15	11	3	1
	100.0	73.3	20.0	6.7
2000年～	18	6	12	0
	100.0	33.3	66.7	0.0

表4-5 小規模ケア実施状況別退所者用の居室の有無

	総数	ない	ある	N.A.
全体	115	35	78	2
	100.0	30.4	67.8	1.7
実施している (全入所児童)	23	11	12	0
	100.0	47.8	52.2	0.0
実施している (一部児童)	51	16	33	2
	100.0	31.4	64.7	3.9
実施していない	41	8	33	0
	100.0	19.5	80.5	0.0

表5-1 小規模ケア実施状況別個人専用の食器

	総数	未就学 児童	小学生	中学生	高校生	無回答
全体	115	68	74	73	78	36
	100.0	59.1	64.3	63.5	67.8	31.3
実施している (全入所児童)	23	21	22	21	22	1
	100.0	91.3	95.7	91.3	95.7	4.3
実施している (一部児童)	51	27	30	30	32	19
	100.0	52.9	58.8	58.8	62.7	37.3
実施していない	41	20	22	22	24	16
	100.0	48.8	53.7	53.7	58.5	39.0

表5-2 施設形態別個人専用の食器

	総数	未就学児童	小学生	中学生	高校生	無回答
全体	114	66	73	72	76	37
	100.0	57.9	64.0	63.2	66.7	32.5
大舎制	74	34	40	40	42	31
	100.0	45.9	54.1	54.1	56.8	41.9
中舎制	19	12	13	13	14	5
	100.0	63.2	68.4	68.4	73.7	26.3
小舎制	21	20	20	19	20	1
	100.0	95.2	95.2	90.5	95.2	4.8

表5-3 小規模ケア実施状況別共同スペースの有無

	総数	学習室	遊戯室	図書室	食堂	居間 談話室	庭 運動場	集会室	その他
全体	115	60	63	53	93	87	107	51	26
	100.0	52.2	54.8	46.1	80.9	75.7	93.0	44.3	22.6
実施している (全入所児童)	23	11	8	8	16	17	22	11	5
	100.0	47.8	34.8	34.8	69.6	73.9	95.7	47.8	21.7
実施している (一部入所児童)	51	24	30	25	40	38	45	19	14
	100.0	47.1	58.8	49.0	78.4	74.5	88.2	37.3	27.5
実施していない	41	25	25	20	37	32	40	21	7
	100.0	61.0	61.0	48.8	90.2	78.0	97.6	51.2	17.1

表5-4 小規模ケア実施状況別1人になれる場所の有無 P<0.01

	総数	はい	いいえ
全体	115	68	47
	100.0	59.1	40.9
実施している (全入所児童)	23	20	3
	100.0	87.0	13.0
実施している (一部入所児童)	51	26	25
	100.0	51.0	49.0
実施していない	41	22	19
	100.0	53.7	46.3

表5-5 小規模ケア実施状況別1人になれる場所の使用

	総数	いつでも 使える	使える時 間が決ま っている	職員の許 可が必要	その他
全体	68	20	4	33	11
	100.0	29.4	5.9	48.5	16.2
実施している (全入所児童)	20	8	1	6	5
	100.0	40.0	5.0	30.0	25.0
実施している (一部入所児童)	26	7	2	13	4
	100.0	26.9	7.7	50.0	15.4
実施していない	22	5	1	14	2
	100.0	22.7	4.5	63.6	9.1

表6-1 「入所児童が多く、1人1人に必要な広さが確保されにくい」(小規模ケアの実施状況別)

p<0.05

	総数	まったくあ てはまら ない	あまりあ てはまら ない	どちらとも いえない	ややあて はまる	かなりあ てはまる	無回答
全体	115	11	26	19	35	23	1
	100.0	9.6	22.6	16.5	30.4	20.0	0.9
実施している (全入所児童)	23	3	8	2	7	3	0
	100.0	13.0	34.8	8.7	30.4	13.0	0.0
実施している (一部入所児童)	51	5	12	9	14	10	1
	100.0	9.8	23.5	17.6	27.5	19.6	2.0
実施していない	41	3	6	8	14	10	0
	100.0	7.3	14.6	19.5	34.1	24.4	0.0

表6-2 「寝室以外に自由に使えるスペースが少ない」(小規模ケア実施状況別)

p<0.05

	総数	まったくあ てはまら ない	あまりあ てはまら ない	どちらとも いえない	ややあて はまる	かなりあ てはまる
全体	115	9	37	25	29	15
	100.0	7.8	32.2	21.7	25.2	13.0
実施している (全入所児童)	23	2	6	7	7	1
	100.0	8.7	26.1	30.4	30.4	4.3
実施している (一部入所児童)	51	5	20	6	14	6
	100.0	9.8	39.2	11.8	27.5	11.8
実施していない	41	2	11	12	8	8
	100.0	4.9	26.8	29.3	19.5	19.5

表6-3 「子どもが1人になれる空間がない」(小規模ケア実施状況別)

	総数	まったくあ てはまら ない	あまりあ てはまら ない	どちらとも いえない	ややあて はまる	かなりあ てはまる
全体	115	1	21	18	40	35
	100.0	0.9	18.3	15.7	34.8	30.4
実施している (全入所児童)	23	0	10	4	6	3
	100.0	0.0	43.5	17.4	26.1	13.0
実施している (一部入所児童)	51	0	7	9	19	16
	100.0	0.0	13.7	17.6	37.3	31.4
実施していない	41	1	4	5	15	16
	100.0	2.4	9.8	12.2	36.6	39.0

表6-4 「浴室やトイレが混み合う」(建設時期別)

p<0.01

	総数	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる
全体	115	14	43	23	26	9
	100.0	12.2	37.4	20.0	22.6	7.8
~1969年	22	2	6	1	10	3
	100.0	9.1	27.3	4.5	45.5	13.6
1970~1979年	42	4	12	11	10	5
	100.0	9.5	28.6	26.2	23.8	11.9
1980~1989年	18	1	8	6	3	0
	100.0	5.6	44.4	33.3	16.7	0.0
1990~1999年	15	1	10	1	3	0
	100.0	6.7	66.7	6.7	20.0	0.0
2000年~	18	6	7	4	0	1
	100.0	33.3	38.9	22.2	0.0	5.6

表6-5-1 「家庭のような暖かみのある空間が少ない」(小規模ケア実施状況別)

p<0.05

	総数	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる
全体	115	11	42	29	24	9
	100.0	9.6	36.5	25.2	20.9	7.8
実施している(全入所児童)	23	3	15	2	3	0
	100.0	13.0	65.2	8.7	13.0	0.0
実施している(一部入所児童)	51	7	15	13	12	4
	100.0	13.7	29.4	25.5	23.5	7.8
実施していない	41	1	12	14	9	5
	100.0	2.4	29.3	34.1	22.0	12.2

表6-5-2 「家庭のような暖かみのある空間が少ない」(施設形態別)

	総数	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる
全体	114	11	40	29	25	9
	100.0	9.6	35.1	25.4	21.9	7.9
大舎制	74	6	21	19	21	7
	100.0	8.1	28.4	25.7	28.4	9.5
中舎制	19	3	5	6	3	2
	100.0	15.8	26.3	31.6	15.8	10.5
小舎制	21	2	14	4	1	0
	100.0	9.5	66.7	19.0	4.8	0.0

表6-6-1 「建物の老朽化で、改善が必要な箇所が多い」(小規模ケア実施状況別)

P<0.01

	総数	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	無回答
全体	115	23	20	20	19	32	1
	100.0	20.0	17.4	17.4	16.5	27.8	0.9
実施している(全入所児童)	23	6	4	1	8	4	0
	100.0	26.1	17.4	4.3	34.8	17.4	0.0
実施している(一部入所児童)	51	10	10	15	5	10	1
	100.0	19.6	19.6	29.4	9.8	19.6	2.0
実施していない	41	7	6	4	6	18	0
	100.0	17.1	14.6	9.8	14.6	43.9	0.0

表6-6-2 「建物の老朽化で、改善が必要な箇所が多い」(建設時期別)

p<0.01

	総数	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	無回答
全体	115	22	22	19	18	33	1
	100.0	19.1	19.1	16.5	15.7	28.7	0.9
~1969年	22	0	3	2	4	13	0
	100.0	0.0	13.6	9.1	18.2	59.1	0.0
1970~1979年	42	3	3	12	9	14	1
	100.0	7.1	7.1	28.6	21.4	33.3	2.4
1980~1989年	18	0	4	3	5	6	0
	100.0	0.0	22.2	16.7	27.8	33.3	0.0
1990~1999年	15	4	9	2	0	0	0
	100.0	26.7	60.0	13.3	0.0	0.0	0.0
2000年~	18	15	3	0	0	0	0
	100.0	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0

表6-7-1 「子どもの私物や好みを採用しにくい」(小規模ケア実施状況別)P<0.05

	総数	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる
全体	115	9	41	46	16	3
	100.0	7.8	35.7	40.0	13.9	2.6
実施している(全入所児童)	23	4	11	7	1	0
	100.0	17.4	47.8	30.4	4.3	0.0
実施している(一部入所児童)	51	3	16	26	4	2
	100.0	5.9	31.4	51.0	7.8	3.9
実施していない	41	2	14	13	11	1
	100.0	4.9	34.1	31.7	26.8	2.4

表6-7-2 「子どもの私物や好みを採用しにくい」(施設形態別) P<0.05

	総数	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる
全体	114	9	41	44	17	3
	100.0	7.9	36.0	38.6	14.9	2.6
大舎制	74	5	25	29	12	3
	100.0	6.8	33.8	39.2	16.2	4.1
中舎制	19	0	7	8	4	0
	100.0	0.0	36.8	42.1	21.1	0.0
小舎制	21	4	9	7	1	0
	100.0	19.0	42.9	33.3	4.8	0.0

表6-8 「職員が子どもの行動を把握しにくい」(小規模ケア実施状況別)

	総数	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる
全体	115	8	52	41	12	2
	100.0	7.0	45.2	35.7	10.4	1.7
実施している(全入所児童)	23	2	11	7	3	0
	100.0	8.7	47.8	30.4	13.0	0.0
実施している(一部入所児童)	51	3	30	12	6	0
	100.0	5.9	58.8	23.5	11.8	0.0
実施していない	41	3	11	22	3	2
	100.0	7.3	26.8	53.7	7.3	4.9

表6-9 子どもの年齢に対応した空間が整備されていない(建設時期別) p<0.05

	総数	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	無回答
全体	115	4	35	27	35	13	1
	100.0	3.5	30.4	23.5	30.4	11.3	0.9
～1969年	22	1	2	6	10	3	0
	100.0	4.5	9.1	27.3	45.5	13.6	0.0
1970～1979年	42	1	13	9	12	6	1
	100.0	2.4	31.0	21.4	28.6	14.3	2.4
1980～1989年	18	0	1	5	9	3	0
	100.0	0.0	5.6	27.8	50.0	16.7	0.0
1990～1999年	15	0	9	3	2	1	0
	100.0	0.0	60.0	20.0	13.3	6.7	0.0
2000年～	18	2	10	4	2	0	0
	100.0	11.1	55.6	22.2	11.1	0.0	0.0

表6-10-1 「子どものプライバシーが十分に確保できない」(小規模ケア実施状況別) P<0.05

	総数	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる
全体	115	2	20	39	37	17
	100.0	1.7	17.4	33.9	32.2	14.8
実施している(全入所児童)	23	0	9	8	5	1
	100.0	0.0	39.1	34.8	21.7	4.3
実施している(一部入所児童)	51	2	8	17	17	7
	100.0	3.9	15.7	33.3	33.3	13.7
実施していない	41	0	3	14	15	9
	100.0	0.0	7.3	34.1	36.6	22.0

表6-10-2 「子どものプライバシーが十分に確保できない」(施設形態別)

	総数	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる
全体	114	2	18	38	39	17
	100.0	1.8	15.8	33.3	34.2	14.9
大舎制	74	2	9	26	24	13
	100.0	2.7	12.2	35.1	32.4	17.6
中舎制	19	0	3	4	10	2
	100.0	0.0	15.8	21.1	52.6	10.5
小舎制	21	0	6	8	5	2
	100.0	0.0	28.6	38.1	23.8	9.5

表6-10-3 「子どものプライバシーが十分に確保できない」(建設時期別) p<0.05

	総数	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる
全体	115	4	35	27	35	13
	100.0	3.5	30.4	23.5	30.4	11.3
～1969年	22	1	2	6	10	3
	100.0	4.5	9.1	27.3	45.5	13.6
1970～1979年	42	1	13	9	12	6
	100.0	2.4	31.0	21.4	28.6	14.3
1980～1989年	18	0	1	5	9	3
	100.0	0.0	5.6	27.8	50.0	16.7
1990～1999年	15	0	9	3	2	1
	100.0	0.0	60.0	20.0	13.3	6.7
2000年～	18	2	10	4	2	0
	100.0	11.1	55.6	22.2	11.1	0.0

表6-11 「自立支援のための設備や環境が整っていない」(建設時期別) p<0.01

	総数	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる
全体	115	5	36	23	33	18
	100.0	4.3	31.3	20.0	28.7	15.7
～1969年	22	0	3	3	12	4
	100.0	0.0	13.6	13.6	54.5	18.2
1970～1979年	42	2	10	10	9	11
	100.0	4.8	23.8	23.8	21.4	26.2
1980～1989年	18	1	5	1	8	3
	100.0	5.6	27.8	5.6	44.4	16.7
1990～1999年	15	0	9	4	2	0
	100.0	0.0	60.0	26.7	13.3	0.0
2000年～	18	2	9	5	2	0
	100.0	11.1	50.0	27.8	11.1	0.0

表6-12 「子どもの家族などの来訪者とゆっくり過ごせる空間がない」(建設時期別)

p<0.05

	総数	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる
全体	115	5	36	23	33	18
	100.0	4.3	31.3	20.0	28.7	15.7
～1969年	22	0	3	3	12	4
	100.0	0.0	13.6	13.6	54.5	18.2
1970～1979年	42	2	10	10	9	11
	100.0	4.8	23.8	23.8	21.4	26.2
1980～1989年	18	1	5	1	8	3
	100.0	5.6	27.8	5.6	44.4	16.7
1990～1999年	15	0	9	4	2	0
	100.0	0.0	60.0	26.7	13.3	0.0
2000年～	18	2	9	5	2	0
	100.0	11.1	50.0	27.8	11.1	0.0

表6-13 「室内の温度調整がしにくい」(建設時期別)

p<0.01

	総数	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる
全体	115	11	27	24	36	17
	100.0	9.6	23.5	20.9	31.3	14.8
～1969年	22	0	3	3	10	6
	100.0	0.0	13.6	13.6	45.5	27.3
1970～1979年	42	5	7	8	13	9
	100.0	11.9	16.7	19.0	31.0	21.4
1980～1989年	18	1	6	2	7	2
	100.0	5.6	33.3	11.1	38.9	11.1
1990～1999年	15	1	6	6	2	0
	100.0	6.7	40.0	40.0	13.3	0.0
2000年～	18	4	5	5	4	0
	100.0	22.2	27.8	27.8	22.2	0.0

表7 居住環境を整えるための費用

	国庫補助以外の加算				寄附などの収入			
	総数	なし	あり	N. A.	総数	なし	あり	N. A.
全体	115	70	34	11	115	53	51	11
	100.0	60.9	29.6	9.6	100.0	46.1	44.3	9.6
実施している (全入所児童)	23	10	12	1	23	8	13	2
	100.0	43.5	52.2	4.3	100.0	34.8	56.5	8.7
実施している (一部入所児童)	51	36	11	4	51	25	23	3
	100.0	70.6	21.6	7.8	100.0	49.0	45.1	5.9
実施していない	41	24	11	6	41	20	15	6
	100.0	58.5	26.8	14.6	100.0	48.8	36.6	14.6

表8-1 小規模化の必要性(小規模ケアの実施状況別)

P<0.01

	総数	非常に必要だと思う	やや必要だと思う	あまり必要ではないと思う	全く必要ではないと思う	N. A.
全体	115	62	39	8	0	6
	100.0	53.9	33.9	7.0	0.0	5.2
実施している (全入所児童)	23	19	2	0	0	2
	100.0	82.6	8.7	0.0	0.0	8.7
実施している (一部入所児童)	51	25	24	2	0	0
	100.0	49.0	47.1	3.9	0.0	0.0
実施していない	41	18	13	6	0	4
	100.0	43.9	31.7	14.6	0.0	9.8

表8-2 小規模化の必要性(施設形態別)

P<0.01

	総数	非常に必要だと思う	やや必要だと思う	あまり必要ではないと思う	全く必要ではないと思う	N. A.
全体	114	2	18	38	39	17
	100.0	1.8	15.8	33.3	34.2	14.9
大舎制	74	2	9	26	24	13
	100.0	2.7	12.2	35.1	32.4	17.6
中舎制	19	0	3	4	10	2
	100.0	0.0	15.8	21.1	52.6	10.5
小舎制	21	0	6	8	5	2
	100.0	0.0	28.6	38.1	23.8	9.5

表9-1 小規模ケアの実施状況別小規模化によるメリット(未就学児童)

	総数	子どもと職員の関係が密接になる	職員が子どもの個別の状況に対応しやすい	家庭的な雰囲気での生活する	子ども同士のトラブルが減る	子どもが自分の空間を持ちやすい	職員が子どもに関わる時間が長くなる	子ども同士に仲間意識が生まれる	子どもの自立に必要な生活体験ができる	子どもが1人で過ごす時間が長くなる	子どもが安定する	職員の子どもの姿が見えやすくなり行動モデルができる	地域とのつながりができる	その他	N. A.
全体	115	75	45	72	11	2	45	0	8	2	53	9	5	1	5
	100.0	65.2	39.1	62.6	9.6	1.7	39.1	0.0	7.0	1.7	46.1	7.8	4.3	0.9	4.3
実施している (全入所児童)	23	18	6	14	1	0	10	0	1	0	11	1	1	1	1
	100.0	78.3	26.1	60.9	4.3	0.0	43.5	0.0	4.3	0.0	47.8	4.3	4.3	4.3	4.3
実施している (一部入所児童)	51	35	24	31	4	1	19	0	7	0	26	3	3	0	0
	100.0	68.6	47.1	60.8	7.8	2.0	37.3	0.0	13.7	0.0	51.0	5.9	5.9	0.0	0.0
実施していない	41	22	15	27	6	1	16	0	0	2	16	5	1	0	4
	100.0	53.7	36.6	65.9	14.6	2.4	39.0	0.0	0.0	4.9	39.0	12.2	2.4	0.0	9.8

表9-2 小規模ケアの実施状況別小規模化によるメリット(小学生)

	総数	子どもと職員の関係が密接になる	職員が子どもの個別の状況に対応しやすい	家庭的な雰囲気での生活する	子ども同士のトラブルが減る	子どもが自分の空間を持ちやすい	職員が子どもに関わる時間が長くなる	子ども同士に仲間意識が生まれる	子どもの自立に必要な生活体験ができる	子どもが1人で過ごす時間が長くなる	子どもが安定する	職員の子どもの姿が見えやすくなり行動モデルができる	地域とのつながりができる	その他	N. A.
全体	115	57	40	61	23	15	30	11	15	4	34	22	12	1	6
	100.0	49.6	34.8	53.0	20.0	13.0	26.1	9.6	13.0	3.5	29.6	19.1	10.4	0.9	5.2
実施している (全入所児童)	23	12	9	14	4	2	5	1	1	2	5	5	3	1	1
	100.0	52.2	39.1	60.9	17.4	8.7	21.7	4.3	4.3	8.7	21.7	21.7	13.0	4.3	4.3
実施している (一部入所児童)	51	27	20	26	9	6	17	5	7	1	19	8	5	0	1
	100.0	52.9	39.2	51.0	17.6	11.8	33.3	9.8	13.7	2.0	37.3	15.7	9.8	0.0	2.0
実施していない	41	18	11	21	10	7	8	5	7	1	10	9	4	0	4
	100.0	43.9	26.8	51.2	24.4	17.1	19.5	12.2	17.1	2.4	24.4	22.0	9.8	0.0	9.8

表9-3 小規模ケアの実施状況別小規模化によるメリット(中学生・高校生)

	総数	子どもと職員の関係が密接になる	職員が子どもの個別の状況に対応しやすい	家庭的な雰囲気です生活する	子ども同士のトラブルが減る	子どもが自分の空間を持ちやすい	職員が子どもに関わる時間が長くなる	子ども同士に仲間意識が生まれる	子どもの自立に必要な生活体験ができる	子どもが1人で過ごす時間が長くなる	子どもが安定する	職員の姿が子どもに見えやすくなり行動モデルができる	地域とのつながりができる	その他	N.A.
全体	115	43	36	30	10	37	15	5	73	16	24	20	12	2	6
	100.0	37.4	31.3	26.1	8.7	32.2	13.0	4.3	63.5	13.9	20.9	17.4	10.4	1.7	5.2
実施している(全入所児童)	23	9	11	4	1	8	3	0	12	5	5	3	2	1	1
	100.0	39.1	47.8	17.4	4.3	34.8	13.0	0.0	52.2	21.7	21.7	13.0	8.7	4.3	4.3
実施している(一部児童)	51	19	16	16	7	20	8	0	31	4	16	7	5	1	1
	100.0	37.3	31.4	31.4	13.7	39.2	15.7	0.0	60.8	7.8	31.4	13.7	9.8	2.0	2.0
実施していない	41	15	9	10	2	9	4	5	30	7	3	10	5	0	4
	100.0	36.6	22.0	24.4	4.9	22.0	9.8	12.2	73.2	17.1	7.3	24.4	12.2	0.0	9.8

表10 小規模ケアの実施状況別今後のグループホーム設置の予定 p<0.01

		現在すでに設置、今後も増設したい	現在すでに設置、当分はこの体制で	設置する予定がある	設置したいが具体的な予定は決まっていない	設置する考えはない	その他	無回答
全体	115	17	20	14	40	16	4	4
	100.0	14.8	17.4	12.2	34.8	13.9	3.5	3.5
実施している(全入所児童)	23	4	5	3	6	1	1	3
	100.0	17.4	21.7	13.0	26.1	4.3	4.3	13.0
実施している(一部児童)	51	13	15	4	12	6	1	0
	100.0	25.5	29.4	7.8	23.5	11.8	2.0	0.0
実施していない	41	0	0	7	22	9	2	1
	100.0	0.0	0.0	17.1	53.7	22.0	4.9	2.4

表11 小規模ケアの実施状況別小規模ケアへの取り組み

	総数	現在すでに入所児童全員に対して小規模ケアを行っているので必要ない	本体施設を全面的に改築して小規模化を図る予定	本体施設の一部を改築する予定	本体施設敷地内に場所を用意する予定	本体施設敷地外に場所を探す予定	小規模化したいと思っているが具体的には考えていない	小規模化する考えはない	その他	無回答
全体	115	13	14	19	17	22	24	9	9	6
	100.0	11.3	12.2	16.5	14.8	19.1	20.9	7.8	7.8	5.2
実施している(全入所児童)	23	9	3	3	2	4	3	0	2	2
	100.0	39.1	13.0	13.0	8.7	17.4	13.0	0.0	8.7	8.7
実施している(一部児童)	51	4	9	10	6	13	12	2	4	2
	100.0	7.8	17.6	19.6	11.8	25.5	23.5	3.9	7.8	3.9
実施していない	41	0	2	6	9	5	9	7	3	2
	100.0	0.0	4.9	14.6	22.0	12.2	22.0	17.1	7.3	4.9

表12 小規模ケア実施状況別適正なケア単位

	総数	6人未満	6人がよい	6人以上	年齢層による	無回答
全体	115	60	31	6	11	7
	100.0	52.2	27.0	5.2	9.6	6.1
実施している(全入所児童)	23	14	8	0	0	1
	100.0	60.9	34.8	0.0	0.0	4.3
実施している(一部児童)	51	29	12	4	6	0
	100.0	56.9	23.5	7.8	11.8	0.0
実施していない	41	17	11	2	5	6
	100.0	41.5	26.8	4.9	12.2	14.6

表13 小規模ケアの実施状況別小規模化への阻害要因

	総数	職員配置が困難である	職員の勤務体制が労働基準法に触れることになる	職員が加重労働になり十分に休養ができない	職員の精神的負担が大きくなる	専門的助言が必要になる	大集団の方が適した状態の子どもがいる	職員と密接になることで子どもの逃げ場がなくなる	入所児童間のサービスの質に格差が生じる	適当な物件が見つからない	施設の構造上の問題があり改築が困難である	自己資金が足りない	公的補助が受けられない・充分でない
全体	115	95	61	58	64	26	22	17	26	22	26	41	49
	100.0	82.6	53.0	50.4	55.7	22.6	19.1	14.8	22.6	19.1	22.6	35.7	42.6
実施している(全入所児童)	23	16	15	12	17	8	1	3	3	3	4	7	6
	100.0	69.6	65.2	52.2	73.9	34.8	4.3	13.0	13.0	13.0	17.4	30.4	26.1
実施している(一部児童)	51	44	30	24	23	13	11	7	11	11	14	18	23
	100.0	86.3	58.8	47.1	45.1	25.5	21.6	13.7	21.6	21.6	27.5	35.3	45.1
実施していない	41	35	16	22	24	5	10	7	12	8	8	16	20
	100.0	85.4	39.0	53.7	58.5	12.2	24.4	17.1	29.3	19.5	19.5	39.0	48.8

<小規模ケア用調査結果>

表14-1 入所児童の年齢構成

	総数	未就学児童あり	小学生あり	中学生あり	高校生あり
本体施設	119	114	113	112	111
	100.0	95.8	95.0	94.1	93.3
小規模ケア	74	26	55	43	37
	100.0	35.1	74.3	58.1	50.0

表14-2 施設敷地内外別小規模ケアの年齢構成

	総数	未就学児童	小学生	中学生	高校生
全体	70	24	51	40	35
	100.0	34.3	72.9	57.1	50.0
施設敷地内	34	10	20	17	12
	100.0	29.4	58.8	50.0	35.3
施設敷地外	36	14	31	23	23
	100.0	38.9	86.1	63.9	63.9

表15 施設敷地内外別小規模ケア形態

	総数	本体施設内ユニットケア	小規模グループケア(本体施設内)	小規模グループケア(施設敷地内)	小規模グループケア(施設敷地外)	地域小規模児童養護施設
全体	70	9	11	14	14	22
	100.0	12.9	15.7	20.0	20.0	31.4
施設敷地内	34	9	11	14	0	0
	100.0	26.5	32.4	41.2	0.0	0.0
施設敷地外	36	0	0	0	14	22
	100.0	0.0	0.0	0.0	38.9	61.1

表16 施設敷地内外別定員

	総数	6人	7人	8人	10人以上	無回答
全体	70	9	11	14	14	22
	100.0	12.9	15.7	20.0	20.0	31.4
施設敷地内	34	9	11	14	0	0
	100.0	26.5	32.4	41.2	0.0	0.0
施設敷地外	36	0	0	0	14	22
	100.0	0.0	0.0	0.0	38.9	61.1

表17-1 施設敷地内外別中学生の個室

	総数	なし	一部あり	あり	無回答
全体	70	32	10	17	11
	100.0	45.7	14.3	24.3	15.7
施設敷地内	34	16	8	7	3
	100.0	47.1	23.5	20.6	8.8
施設敷地外	36	16	2	10	8
	100.0	44.4	5.6	27.8	22.2

表17-2 施設敷地内外別高校生の個室

	総数	なし	一部あり	あり	無回答
全体	70	19	11	22	18
	100.0	27.1	15.7	31.4	25.7
施設敷地内	34	9	7	10	8
	100.0	26.5	20.6	29.4	23.5
施設敷地外	36	10	4	12	10
	100.0	27.8	11.1	33.3	27.8

表18 施設敷地内外別小規模ケアの必要性

	総数	非常に必要だと思う	やや必要だと思う	あまり必要ではないと思う	全く必要ないと思う	無回答
全体	70	53	16	0	0	1
	100.0	75.7	22.9	0.0	0.0	1.4
施設敷地内	34	23	11	0	0	0
	100.0	67.6	32.4	0.0	0.0	0.0
施設敷地外	36	30	5	0	0	1
	100.0	83.3	13.9	0.0	0.0	2.8

表19-1 メリット(未就学児童)

	総数	子どもと職員の関係が密接になる	職員が子どもの個別の状況に対応しやすい	家庭的な雰囲気生活する	子ども同士のトラブルが減る	子どもが自分の空間を持ちやすい	職員が子どもに関わる時間が長くなる	子ども同士に仲間意識が生まれる	子どもの自立に必要な生活体験ができる	子どもが1人で過ごす時間が長くなる	子どもが安定する	職員の姿が子どもに見えやすくなり行動モデルができる	地域とのつながりができる	その他	無回答
全体	70	44	24	46	4	1	25	0	3	1	17	5	1	0	13
	100.0	62.9	34.3	65.7	5.7	1.4	35.7	0.0	4.3	1.4	24.3	7.1	1.4	0.0	18.6
施設敷地内	34	22	10	25	3	1	10	0	2	1	4	3	0	0	7
	100.0	64.7	29.4	73.5	8.8	2.9	29.4	0.0	5.9	2.9	11.8	8.8	0.0	0.0	20.6
施設敷地外	36	22	14	21	1	0	15	0	1	0	13	2	1	0	6
	100.0	61.1	38.9	58.3	2.8	0.0	41.7	0.0	2.8	0.0	36.1	5.6	2.8	0.0	16.7

表19-2 メリット(小学生)

	総数	子どもと職員の関係が密接になる	職員が子どもの個別の状況に対応しやすい	家庭的な雰囲気生活する	子ども同士のトラブルが減る	子どもが自分の空間を持ちやすい	職員が子どもに関わる時間が長くなる	子ども同士に仲間意識が生まれる	子どもの自立に必要な生活体験ができる	子どもが1人で過ごす時間が長くなる	子どもが安定する	職員の姿が子どもに見えやすくなり行動モデルができる	地域とのつながりができる	その他	無回答
全体	70	34	22	38	9	9	15	11	18	1	16	12	8	2	5
	100.0	48.6	31.4	54.3	12.9	12.9	21.4	15.7	25.7	1.4	22.9	17.1	11.4	2.9	7.1
施設敷地内	34	17	9	18	6	6	8	7	9	1	7	4	0	1	3
	100.0	50.0	26.5	52.9	17.6	17.6	23.5	20.6	26.5	2.9	20.6	11.8	0.0	2.9	8.8
施設敷地外	36	17	13	20	3	3	7	4	9	0	9	8	8	1	2
	100.0	47.2	36.1	55.6	8.3	8.3	19.4	11.1	25.0	0.0	25.0	22.2	22.2	2.8	5.6

表19-3 メリット(中学生・高校生)

	総数	子どもと職員の関係が密接になる	職員が子どもの個別の状況に対応しやすい	家庭的な雰囲気生活する	子ども同士のトラブルが減る	子どもが自分の空間を持ちやすい	職員が子どもに関わる時間が長くなる	子ども同士に仲間意識が生まれる	子どもの自立に必要な生活体験ができる	子どもが1人で過ごす時間が長くなる	子どもが安定する	職員の姿が子どもに見えやすくなり行動モデルができる	地域とのつながりができる	その他	無回答
全体	70	27	26	19	5	22	10	3	46	7	12	13	5	3	4
	100.0	38.6	37.1	27.1	7.1	31.4	14.3	4.3	65.7	10.0	17.1	18.6	7.1	4.3	5.7
施設敷地内	34	12	14	10	3	10	6	2	19	4	6	7	1	2	2
	100.0	35.3	41.2	29.4	8.8	29.4	17.6	5.9	55.9	11.8	17.6	20.6	2.9	5.9	5.9
施設敷地外	36	15	12	9	2	12	4	1	27	3	6	6	4	1	2
	100.0	41.7	33.3	25.0	5.6	33.3	11.1	2.8	75.0	8.3	16.7	16.7	11.1	2.8	5.6

表20 小規模ケアへの取り組み

	総数	本体施設を全面的に改築してユニットケアの導入を図るのがよい	本体施設の一部を改築して現状から徐々に移行するのがよい	本体施設敷地内に適当な場所を設置するのがよい	本体施設敷地外に適当な場所を設置するのがよい	さまざまな形態の小規模グループケアができることがよい	小規模化する必要はない	その他	無回答
全体	70	8	10	4	11	31	0	3	3
	100.0	11.4	14.3	5.7	15.7	44.3	0.0	4.3	4.3
施設敷地内	34	4	3	2	7	15	0	2	1
	100.0	11.8	8.8	5.9	20.6	44.1	0.0	5.9	2.9
施設敷地外	36	4	7	2	4	16	0	1	2
	100.0	11.1	19.4	5.6	11.1	44.4	0.0	2.8	5.6

表21 適正なケア単位

	総数	6人未満	6人がよい	6人以上	年齢層による
全体	70	37	23	3	7
	100.0	52.9	32.9	4.3	10.0
施設敷地内	34	18	12	2	2
	100.0	52.9	35.3	5.9	5.9
施設敷地外	36	19	11	1	5
	100.0	52.8	30.6	2.8	13.9

表22 小規模化への阻害要因

	総数	職員配置が困難である	職員の勤務体制が標準に比べ劣る	職員が加重労働になり十分に休養ができない	職員の精神的負担が大きくなる	専門的助言が必要になる	小規模化により子ども同士のトラブルが増える	大集団の方が適した状態の子どもがいる	職員と密接になることで子どもが逃げ場がなくなる	入所児童間のサービスの質に格差が生じる	適当な物が見つからない	近隣住民が理解が得られない	施設の構造上の問題があり改築が困難である	自己資金が足りない	公的補助が受けられない・充分でない	具体的な方法がわからないので計画がたてられない	その他	無回答
全体	70	51	29	34	35	28	3	20	14	20	5	6	11	17	22	0	5	1
	100.0	72.9	41.4	48.6	50.0	40.0	4.3	28.6	20.0	28.6	7.1	8.6	15.7	24.3	31.4	0.0	7.1	1.4
施設敷地内	34	29	15	18	16	8	2	10	6	10	3	5	7	8	11	0	1	0
	100.0	85.3	44.1	52.9	47.1	23.5	5.9	29.4	17.6	29.4	8.8	14.7	20.6	23.5	32.4	0.0	2.9	0.0
施設敷地外	36	22	14	16	19	20	1	10	8	10	2	1	4	9	11	0	4	1
	100.0	61.1	38.9	44.4	52.8	55.6	2.8	27.8	22.2	27.8	5.6	2.8	11.1	25.0	30.6	0.0	11.1	2.8